

2 0 1 8 年 度

# 事 業 報 告 書

鎮 西 学 院 本 部

鎮 西 学 院 幼 稚 園

鎮 西 学 院 高 等 学 校

長 崎 ウ エ ス レ ヤ ン 大 学

学校法人 鎮西学院

長崎県諫早市西栄田町 1212 番地 1

# 学 院 本 部

## 鎮西学院 2018 年度事業報告

### 建学の精神・鎮西学院の目指す人間像

1881 年（明治 14）鎮西学院は、北アメリカメソジスト監督教会から派遣された宣教師 C.S.ロングによって、長崎市東山手に設立された。生徒 12 名と教師 4 名からスタートした学院は、今や幼稚園・高校・大学までを擁し、卒業生の総数が 1 万 5 千人を超える総合学園に発展した。137 年という長い期間には、原子爆弾による被爆を経験し、また災害にも遭遇した。しかし鎮西学院は常に望みと信仰を棄てず、神への信頼をおく者の強さを発揮して今日に至っている。

少子高齢化や国際化など、今、教育をめぐる環境は時代とともに変化し、私学のあり方もその根本が問い直されている。しかしそのような状況にあっても、創立者 C.S.ロングの教えである *Be Christian Gentlemen!*（キリスト教精神をもった紳士たれ）という建学の精神は、創立 137 年を迎えた現在でも生きており、クリスチャン・マインドを持った教養人を育むことは、学院の創立意義でもある。将来とも変わることのない鎮西学院にとっての真理である。

川崎升元院長が提唱した「敬天愛人」のスクールモットーは、戦時下の学院を閉校の危機から救った。「敬天愛人」のスクールモットーは、鎮西学院に連なる多くの人々の基本的な生き方の姿勢であるといっても過言ではない。

### 事業の概要

#### (1) 2018 年度目標聖句

「立って、真理を帯として腰に締め、正義を胸当てとして着け、平和の福音を告げる準備を履物としなさい。」

エフェソの信徒への手紙 6 章 14 節～15 節

2018 年度は、鎮西学院全体の新たな 5 ヶ年（2018—2022 年度）の中期計画の策定・実行を始める年にあたり、ミッションを改めて見直し、理事会のガバナンスとリーダーシップの強化のもと、幼稚園、高等学校、大学の各部門の連携と一体感の醸成に努めるとともに、歴史あるミッションスクールとして培ってきた国際交流・地域連携ネットワークを最大限に発揮し、未来の地域社会で、その担い手となる園児・生徒・学生たちの育成を目的とした特色ある教育研究事業を展開してきた。

#### (2) 事業の概要

##### 【概況】

2018 年度は、栗林理事長のもと、国内外で活躍する著名な政治学者、姜 尚中氏を第 27 代鎮西学院学院長に、学院長の補佐として前高等学校長 川村正徳氏を副院長に迎えるとともに、新たな高

等学校長として前教頭の川崎 健氏、大学学長として再任された佐藤快信氏、幼稚園長 原田裕子氏、新たな法人事務局長として大学事務局長の南慎郎氏らによる新たな運営体制のもと、学内理事による「常置委員会」を新たに設置し、「鎮西学院経営改善計画」の策定と進捗管理をはじめ、理事会のガバナンスとリーダーシップの強化を図るため、「役員選考の透明化」及び「監査機能の強化」を目的とした諸規程の見直し等、基盤の整備に努めた。また、地域の文化事業として、西日本豪雨(H30年7月豪雨)復興支援チャリティーを目的とした「池上彰 講演会」を10月に、「姜 尚中 学院長就任記念講演会」を1月にそれぞれ開催し、多数の市民を迎え、学校法人全体のブランディングに努めた。

幼稚園は、2015年度に発足した「子ども・子育て支援制度」により、「施設給付型の幼稚園」として新たなスタートを切った。

高等学校は、生徒募集の成果が昨年度に引き続き入学定員確保として結実した。男女とも進学とスポーツがいずれも華々しい成果を誇る文武両道の学校へと著しい成長を遂げている。2017年度の普通科公務員コース開設に続き、2018年度は「グローバルイングリッシュコース」が開設された。また、校友の牧平年廣氏による多額の寄附により野球グラウンドが完成した。

大学は、依然として定員割れが続いているものの、入学定員超過率が85.7%と前年度より大幅に回復してきている。また、日本語教育プログラム科目等履修生の10月入学生数も計画を上回った。新たに中国長春大学との交流協定、南島原市、国立青少年自然の家、長崎空港ビルディング株式会社との産学官連携・地域づくり協定が締結された。鎮西学院ならではの国際交流・地域連携事業が展開されている。

### 【鎮西学院 経営改善計画】

2017年11月の文部科学省・学校法人運営調査の結果、2018年度から2022年度の5カ年の新たな経営改善計画を策定し(2018年6月理事会決定)、目標達成に向けた進捗管理に取り組むこととなった。

この経営改善計画の最終年度における財務上の数値目標は、次の通りである。

目標①	経営判断指標：現状 D2→ 計画3年目 B0 → 最終年度 A3
目標②	教育活動資金収支額の黒字化とその維持 現状 △189百万円 → 計画3年目以降 黒字化
目標③	受入学生数： 大学の入学者数：計画3年目は定員の90%（126人）以上 計画最終年度95%（133人）以上を確保 大学の在籍学生数：計画3年目は収容定員の80%（464人）以上、 計画最終年度は95%以上（551人）を確保 (系列校からの内部進学率20%以上、高校新卒者100人以上、留学生40人以上) 日本語教育プログラム留学生 2018(H30)以降每学期50人

計画初年度である2018年度の目標達成状況としては、上述したとおり、学生・生徒・園児募集において前年度を上回る結果となったため、学生生徒納付金収入と補助金収入の増収により、3年ぶりに教育活動資金収支差額が黒字化する結果となった。また、2019年度入学生の募集活動の成果として、大学・高等学校とも入学定員充足を果たすこととなった。

# 鎮西学院幼稚園

キリスト教保育を中心として子ども達を育む

「子ども達を私のところに来させなさい。妨げてはならない。

神の国はこのような者たちのものである。」

マルコによる福音書 10章 14節

創立以来変わらない

～子どもは神様から預かった大切な存在～

として、一人ひとりを大切にしたい教育を行った。

### (1)教育（保育）の基本方針

幼児における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである。という幼児教育の重要性を常に念頭に置き、幼児が「主体的に活動」する遊びを通して、①健康 ②人間関係 ③環境 ④言葉 ⑤表現 5領域のねらいが、総合的に達成されるように努めた。

また、幼児一人ひとりの特性や発達段階を見極め、個々にあった配慮を心がけた。

幼稚園教育要領の改訂で示された（平成29年3月告示）「幼児期の終わりまでに育って欲しい資質・能力」を常に意識した教育活動を展開した。

#### 「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」（10項目）

- ①健康な心と身体
- ②自立心
- ③協同性
- ④道徳性・規範意識（ルールを守ろうとする意識）の芽生え
- ⑤社会生活との関わり
- ⑥思考力の芽生え
- ⑦自然との関わり、生命尊重
- ⑧数量・図形・文字等への関心・感覚
- ⑨ことばによる伝え合い
- ⑩豊かな感性と表現

指導要録用紙も5歳児のみ、この10の姿が記入されたものとなった。日頃より、これを意識して教育にあたった。

## (2)教育目標（保育のこころ） “保育の原点がここにはあります”

- ①「キリスト教の教えの中で、人を思いやり愛ある心を育てる」
- ②「自然に恵まれた環境の中で、のびのびと遊ぶ」
- ③「家庭的な温かい雰囲気の中で、ゆっくりと大切に見守る」

### めざす園児像

- ・ 祈る子
- ・ 挨拶ができる子
- ・ のびのび遊ぶ子
- ・ 自分で考える子
- ・ 思いやりのある子
- ・ 感謝できる子

### めざす教職員像

～教師自らが神に喜ばれる人となれるよう、日々人として保育者としての自分を振り返る～

- ・ 常に笑顔で、浚刺と園児や保護者に対する教職員
- ・ どの子ども神様から預かった未来を担う大切な宝物として愛する教職員
- ・ 園運営に進んで参画し、民主的運営に寄与する教職員
- ・ 年間、月間、週間の見通しを持ち、計画的に実践する教職員
- ・ 同僚と協力し、共に研鑽に励む教職員
- ・ 職場に誇りを持つ教職員

### 一日一善運動

- ・ 年中・年長クラスを中心に“帰りの会”にて、“良かったこと発表”などを行い、みんなで互いに認め合い、神さまと人ともに喜ばれる行動を励行した。
- ・ 職員会議の度に全教職員で確認し、原点に戻り、教育にあたった。

## (3)経営方針

「神様のお守りのもと、園児一人一人が、保護者と共に生かされる幼稚園」

を基本として、保護者が当園を選んでくださって、子ども達が来てくれるから、私達教職員がここで生かされ、教育が出来るという意識を持っていた。

### ☆2018年度より施設型給付の園としてスタート

これまでは県を通して、「私学振興費補助金」を頂いていたが、「子ども子育て支援新制度 施設型給付費」を、市を通して頂いた。

そのことにより、職員数を増やすことができ、運営の面でプラスになることが多かった。

## (4) 努力目標

### ①計画的実践

○全ての行事の起案を早めに ～個人の力から組織の力へ～

個人の力量には限界がある。みんなのアイデアが出せる場と時間的余裕を確保する。

職員は運営に関わることで喜びと連帯を得る。

- ・ 組織の総合力で運営するためには起案を早めに出し、アイデアを出し合う。

大きな行事は、遅くても1ヵ月前までに  
年間ルーティンの行事は、年間計画として年度当初に起案  
通常の起案は、遅くても2週間前まで

○協議等の時間確保のため、毎日の終礼（連絡会）を有効に

- ・月、水、金は連絡会。
- ・火・木は、行事等の協議を行う職員会議、園内研究、現職教育を行った。

○週案提出 … 第2, 4火曜日 業務記録・運転日報の提出 … 第1, 2火曜日

②教職員研修の充実

- ・教職員が研鑽を積むことで、より良い保育の実践が展開される。
- ・保育の質の向上のため出張研修も出来る限り参加できるような体制作り。  
職員が研修に参加できる回数が増え、学ぶ機会を多く持つことが出来た。

③キリスト教保育の充実

④広大で緑豊かな学院全体の活用推進

⑤園だより・クラスだより・フォトレター・園長だよりを毎月発行する

⑥遠足の充実

⑦園長の読み語り・子育て談話室の更新

⑧学校評価の推進

2、施設、設備及び環境整備

(1) 園児用椅子の買い替え

(2) メール一斉送信システム導入

全世帯への連絡の時間短縮、急な連絡等に大変役立った。

(3) 園庭整備の推進

(4) 園舎老朽化への対応

- ・築49年の建物である。(1970年1月10日落成式)
- ・建替えが大きな検討課題である。

3、危機管理

(1) 子どもの生命、健康を預かっているとの使命感を持ち、学期ごとに全職員で安全点検を実施。

(2) 園児の避難訓練を、年間を通して実施。(各学期2回、年6回実施。不審者、火災、地震)

- ・とくに不審者対策では、正門前の運行部にも協力をお願いしている。
- ・アルソックの防犯講習会を専任教職員で受け、不審者対応について学んだ。

(3) 夜間、休日の防犯管理は警備会社に委託し、警備体制をとっている。

(4) 不審者対策の道具『ネットランチャー』を設置している。さらに『さす股』及び各クラスに『催涙スプレー』を設置している。

## 4、園児募集対策

園児確保の最大の力は、在園児保護者や家族の評価・評判が最大の広報となることを忘れず以下の取組を積極的に行った。

### (1) 広大で緑豊かな学院全体の活用推進

鎮西学院幼稚園にしかできない保育、行事であり、最大のアピールポイントである。前述の活動（努力目標④）を展開。

- ・「おひさまくらぶ」にて宝探しを本部棟付近で実施。学院内のチャペルも紹介することが出来た。

### (2) 「希望制パン給食」の回数増

希望制で始めたパン給食。年々希望者が増え、約8割が注文するため、保護者からの要望も多く、週2回に増やした。(回数も希望制とし、個人や各家庭の状況に合わせる。)

### (3) 未就園児と親子のつどいの推進（オープンキャンパスの一環）

保育主任主導で

- ・月3回程度「おひさまくらぶ」（2歳以上対象）実施。
- ・土曜日を利用した未就園児親子遊びのつどいを実施し、全担任が関わって当園のアピールに努めた。（5月、11月）
- ・「おひさまくらぶ」のチラシなどを定期的においていただける場所を広げた。
- ・職員を二人体制にしたことで、余裕が生まれ、内容の充実につながった。参加者も増えた。

### (4) 行事の充実と保護者会（ひかりの会）との連携推進

- ・キリスト教行事はもとより、日本的な行事をはじめ多様な行事の充実に努めた。
- ・保護者の参加型行事を計画し、幼稚園への理解・協力を深めてもらう機会とし、幼稚園の活性化にもつなげていった。（親子歓迎遠足、親子礼拝、親子で楽しむ夏の夕べ、親子で芋畑の畝づくり、もちつき）
- ・園運営について、毎月保護者会役員会で説明責任を果たすとともに、行事等について率直な意見、要望を聞き、連携に努めた。
- ・ひかりの会主催の行事に、可能な限り計画的に手伝い、保護者にも喜んでいただいた。イベントで販売する「子ども用のおもちゃ制作」を教職員で担当した。

### (5) 預かり保育の充実

- ・仕事をされているお母さん方への子育て支援の一環として実施。
- ・月極め6,000円と利用しやすい料金設定にしている。
- ・保育者二人体制で充実を図り、夕方寂しくならないよう配慮している。
- ・夏季休暇中に“お出かけ日”を設定し、専任教員も同行して、“ペンギン水族館”“こどもの城”への遠足を実施。

#### (6) ホームページによる情報提供、宣伝活動の充実

- ・本園の特色を具体的にアピールするために、日常の保育活動の様子をほぼ毎日更新した。このことで、県外からの問い合わせ、実際に転入してくる子が多かった。幼稚園を検索する保護者への貴重な広報となった。

#### (7) 教職員研修の充実

- ・前述のような園内研究、現職教育に加え、外部研修に参加し伝達研修をすることで、教職員の研鑽を積み、より良い保育実践を展開する。その実践が保護者への信頼、満足感へとつながり、園児確保の根幹となる。

#### (8) 学院内の連携

- ・当園にしかできない高校生や大学生との交流を積極的に実施。
- ・学院国際部を通して、留学生とのふれあい体験実施。“小さい時から世界へ目を向ける。”“言葉が通じない相手でも親しみを持ち、積極的にコミュニケーションをとろうとする子どもを育てたい。”という願いのもと、出来る限り交流を持ちたいと考える。
- ・4月にインドの高校生の訪問団を受け入れた。  
歓迎式で歌やダンスを披露し、その後各クラスにてゲームやサッカーなどをし、ふれあいの時を持つことが出来た。
- ・高校インターアクトクラブの生徒が、預かり保育の子ども達と交流。また、教職員の仕事の手伝いに1年を通じ計画的に、来園。
- ・高校講座制授業の生徒が、子どもの前で楽器演奏・歌・ダンスなどをし、保育を体験。
- ・ひな祭り集会に合わせ、高校の箏部の生徒が箏曲演奏。
- ・大学のホームカミングデーで、近い将来父母になる年齢の卒業生に、幼稚園のチラシ配布を行った。

# 鎮西学院高等学校

## 2018 年度鎮西学院高等学校事業報告

◎学院の教育目標	「品性高潔なるクリスチャンジェントルマンの育成」
◎校訓	「敬天愛人」

### 1. 育てたい生徒像

品性高潔で、自導自治の力を有し、目に見えないものを見ることができるよう生徒

### 2. 目指す教師像

品性高潔で、生徒一人一人を愛し、教育活動を通して人生を教えることができる教師

### 3. 教育の基本方針

#### ①Students First!

自分の面子や建前よりも生徒の思い優先し、本音で接しあえる関係を作る

#### ②Believe Your Students!

生徒の可能性を信じ、「どうせ…」「やっても…」などのネガティブな思想や発言禁止

#### ③We're Touching the Future!

常に生徒・家庭・鎮西・日本の未来を担っている自覚と責任を持つ

### 4. 今後の定員 300 名確保(≒財政の健全化)のポイント—他校との差別化進める

#### ①確かな進路保障(常に学校選びの第一ポイント)—以下の 3 本柱の継続

##### 1) 国公立大学合格数 30 名以上(旧帝大 1 名含む)

⇒残念ながら 14 名合格に留まる。1, 2 年次からの早目の指導体制の再構築が必要

##### 2) 公務員合格数 30 名以上(一般職 10 名含む)

⇒既卒生含め延べ 33 名(現役 24 名)合格。一般職は 15 名(現役 6 名)合格。元々の受講人数が少ない中で健闘したと言える。

##### 3) 就職率 100%達成(8 年連続)

⇒景気の持ち直しで求人数が増えたこともあり、18 年中に全員合格を達成。合格先もプロのサッカー選手から農協等まで多岐に亘り、比較的知名度の高い就職先が多かった

#### ②他校にない改革・取り組みの継続(常に、「前年+1<プラスワン>」の精神で)

##### 1) グローバルイングリッシュ(以下 GE)コースの革新的取り組み

⇒Online 英会話、米国人教諭による S&W の授業や、4 回の海外校との交流会、さらに姉妹校上海華東師範大学附属バイリンガルスクールやカナダアップルビーカレッジへの短期留学など、他校にはできない活動ができた。英検 2 級(高校卒業程度)の取得率が 21 名中 11 名と 50% を超え、文科省や日本赤十字社主催の海外研修への最終合格を勝ち取る者も現れた。また、長崎新聞やテレビにおいても何度もその活動は取り上げられている。

##### 2) 公務員コースの充実

⇒19 年度が初の卒業生。夜間指導や合宿指導等で着実に底上げを進めている。

##### 3) 徹底した基礎学力向上の取り組みの継続

⇒マナトレと「すらら」の実施で 1 年生の一般進学コースの英語の成績は飛躍的に上昇した。年度末には成績優秀者と成績向上者の表彰も実施

##### 4) ウェスレヤン大学との連携強化

⇒従来の講座制授業に加え、G 組の生徒が大学生と共に学ぶ「グローバルカフェ」スタート

#### ③部活動の強化—学校活性化、学校の知名度及びイメージのアップに必要(特に野球部)

⇒野球部は牧平年廣記念野球場の完成によって実力を伸ばし、夏・秋共にベスト 8 に進出し、春の

甲子園 21 世紀枠県代表に選ばれた。サッカー一部男子も県新人大会で見事初優勝し九州大会に出場。九州大会でも予選リーグで優勝した鹿児島城西と引き分け、3 位にはいった筑陽に勝利した。新人戦ではサッカー女子・駅伝男子も優勝、準優勝の卓球男女、バレー男子、柔道女子や、高校総体ベスト4の女子バスケットなども期待できる。

## 5. 本校の強み

①136年の伝統・強い母校愛を持つOB・OG（鎮西サポーター）の存在

⇒今年度は特に牧平年廣先輩の多額の寄付により野球場が完成した。また、校友西川氏の紹介により調布リトルリーグで少年野球世界一に何度も導いた鈴木監督の講習会が実現した。

②精神的な支柱(キリスト教)がしっかりとしている

—聖家族(Holy Family)としての繋がり、温かみ

⇒外部から来られた方々に鎮西の生徒たちは品がある、落ち着いていると言われることがよくあるのは間違いなくこの部分の影響によると考えられる。

③同じ敷地内に大学がある、全国にキリスト教同盟校が多数ある

⇒今年度もウエスレヤンに28名、活水10名、西南学院5名、福岡女学院3名を始め、国際基督教・同志社・関西学院・明治学院2名、桃山学院、東洋英和学院等に数多く進学した。

④指導力（部活動・教科指導・進路指導・公務員・保育・国際交流 etc.）の高い教員多い

⇒高校総体は優勝2(サッカー女・卓球女)、準優勝4(卓球男・バレー男・駅伝男・柔道女)、ベスト4入賞1(バスケット女)、新人戦は優勝3(サッカー男・女・駅伝男)、準優勝4(卓球男・女・バレー男・柔道女)、ベスト4入賞1(駅伝女)

公務員・GE関係は前述どおり

⑤公立よりも自由度が高く、人口減も他地区よりも緩やかな県央の諫早・大村地区に立地

⇒留学生の柔軟的受け入れ(0年生、2年次転入学、2・3年次転校など)実施。日本人の転校に関しても学院の持つ博愛的な立場から可能な限りは受け入れ。突発的な海外校との交流会にも可能な限り対応。個人留学や様々なチャレンジにも積極的に取り組ませている。Vファーレン長崎のユースチームの選手のほとんどを受け入れ、可能な限りの協力を行っている。その中にはトップチームに昇格するもの、海外チームプロチームと契約するもの、鹿屋体育大学や同志社大学に進学するものなど多岐に亘り学校の知名度や実績アップに貢献した。

## 6. 他校との差別化の特化ポイント

①グローバル化の推進

1) 留学生積極的受入れ

—18年度は7名でスタート、9月に複数名入学予定、3年後に50名目標

⇒7名でスタート後、中途転校1(オーストラリア/Vファーレン関係)0年生として6名(ベトナム5・中国1)と2年次転入予定生2名が加わった。19年度は21名でスタート。

2) 海外姉妹校開拓(モンゴル・アメリカ・中国)と学校間交流促進

⇒5月に訪中し北京匯文中学と4年間の交流協定を結び、10月に修学旅行団を受け入れた。同

じく5月に訪越しホーチミン市内の6つの中学校を訪問、9月には訪蒙しウランバートルのロガリズム高校の10周年記念式典に出席。9月に姉妹校の上海華東師範大学附属バイリンガルスクールの新校舎落成式に出席し、GEコースの全員の受け入れを打診し受諾され、12月に生徒21名教員1名が約2週間の短期留学を実施し友好を深めた。

これ以外にも4月にインドマンガロール高校(医進系)、6月に上海華東師範大学附属バイリンガ

ルスクール、2月に上海小学校訪問団との交流会を実施し、度々マスコミにも取り上げられた。

1月の終わりから3月の初旬にかけてカナダ姉妹校アップルビーカレッジと3対3の4週間の交換留学を実施。相手方が交換プログラム自体を中止したがっているくらいがあったために、2月に川崎が訪加し2名からの定員増を直にお願いしたことが功を奏した形になり行った甲斐があったと実感した。お互いの国における生活費はお互い持ちという破格の条件であるので、これは是非継続していきたいと思う。

3) ウェスレヤン大との連携

—留学生の日本語コースへの参加、大学留学生との交流、大学の海外研修への参加

⇒2の④にて説明済み

## ②GE コースの発展と活用

1) 実践的英語学習実施

—Online 英会話・姉妹校短期留学・ヤングアメリカンズ(米国の教育プログラム)等参加

2) 各種のスピーチコンテスト等への参加

3) 海外からの学校訪問等で代表として対応させる

⇒4②1)及び上記6の①の2)等で説済み

## ③基礎学力の徹底一面倒見のよい学校、きちんと勉強させる学校としての地位確立のため

1) 最低限必要な知識は必ず身につけさせる(絶対の文武両道)

2) ICT教材(「すらら」「Classi」「スタディサプリ」)の活用

⇒4②3)参照

## ④宗教教育—日々の礼拝・様々な宗教行事を通じ信仰心を修養、同時に愛校心も涵養していく

⇒修養会やクリスマス関連行事は言うまでもないが、日々のチャペルや様々な場面で読まれる聖書や歌われる讃美歌、話される説教は生徒たちの心の中に静かに染み渡り、生徒たちは3年間で大きく成長し、他校では培えない大きな精神的な柱を得ていると思う。卒業式における送辞と答辞には必ず聖書の一節が取り入れられ、生徒たちの日常の中にキリスト教の精神が宿っていることを実感する。また今年度の特徴的なこととして2人の生徒が全体チャペルでの証(説教)を行ってくれたことはとても良かった。生徒たちも通常の教員の話よりも真剣に耳を傾けていたように感じた。

## ⑤きちんとした生徒指導—品性をキーワードに、容儀を徹底(高校生らしく・地元で愛される)

⇒以前に比べて中学校での生徒指導がしっかりとなされていること、本校を第一志望として入学してくる生徒の割合が圧倒的に増えたことなどにより、生徒たちの鎮西生としての誇りや責任ある言動が見られ、容儀がひどく乱れているものや規則に従わないものなどはほぼ皆無の状態である。

## ⑥部活動の強化による宣伝効果と学校活性化

1) 野球グラウンド6月完成予定

⇒6月に完成後、8月に落成式を実施した。牧平先輩の意志をしっかりと受け継いで、後輩たちは頑張っており、近年にない好成績を収め、県内では優勝候補の一角に上げられるまでに成長した。

(4③参照)

2) 陸上女子有望選手(8名)獲得

⇒2年生1名+1年生で臨んだ県高校総体駅伝競技は5位、1年生のみで挑んだ県新人駅伝は4位と結果を残し、有力な新入生も入部し、九州大会出場(3校)を狙える位置にいる。

3) 女子ラグビー同好会の設立

⇒新入部員は2名、目立った活動にはいたらなかったが、テレビ局の取材は受けた。

## 7. ポイント事項達成に向けての取り組み

### ①教育力のアップと情報・意識の共有

#### 1) 職員会議を月2~3回に

—1回は通常・残りは研修報告やテーマ・分掌・教科別の活発な意見交換の場設ける

⇒様々な行事等もあり思ったほどは実施できなかったが、医進コースの話し合いや留学生会議などは実施できた。

#### 2) 校外の研修への積極的参加

—まず希望制、希望ないときは半強制的に行かせて報告させる

⇒可能な限りは紹介し行かせるようにしているが、校務との関係や場所・時間等の問題で十分な参加とはならなかった。英語関係はかなり参加できた

#### 3) 校内研修の充実を図る

—教務主体と各教科主体の2本立てで実施

⇒主要5教科は年1回の研究授業をノルマとし実施。担当者は工夫を凝らし実施していた。参観する教員の増加が課題。次年度以降も継続し、5教科以外にも広げていきたい。

### ②強みを活かす

#### 1) 校友の有効活用(講演・職場体験・寄付のお願い等)

⇒牧平先輩による寄付により野球グラウンドの完成、野球部OBによる得点掲示板の寄贈等多くのご貢献をいただいた。

#### 2) Try & Error の精神で自由に様々なチャレンジを(特に若手)

⇒医進コースの設置に関しては十分な意思の疎通や準備を欠き、現場を混乱に陥れた責任を痛感。今後は着実な進め方を意識していく。ただ、他の私学も生き残りに必死で、特に諫早3校はしのぎを削っており、足を止めれば置いていかれる。常にチャレンジ精神は忘れないようにしたい。他校からは3年連続の定員超過を驚きの目を持って見られている。

#### 3) 同盟校との関係強化(同盟校訪問や推薦枠の拡大等)

⇒直接訪問はできなかったが、これまでの実績等が評価され、同志社から初の推薦枠が来たり、西南学院の推薦枠が1名増になるなどの進展は見られた。しかし、私大の定員超過による補助金カットの影響で青山学院が1次の書類選考で落とされ非常に残念であった。

#### 4) クリスマンスクールらしい品のある校風

⇒6④⑤参照

### ③連携の強化—ウエスレヤン大学・自治体(大学と共に)・地元(諫早・大村・島原半島)

⇒ウエスレヤン大の井川副学長と共に中国との関係強化に努めた。上海華東師範大学附属バイリンガルスクールや汇文中学校との交流が実現し、上海の富裕層の大村市や島原市との交流会等にも参加させてもらった。

### ④教職員の疲弊感解消・やる気の涵養

#### 1) リフレッシュデーの創設—定期試験中に必ず一日設ける(事務職員は交代で)

⇒原則各テストの初日に実施(事務職員は交代制)。おおむね好評であった。

#### 2) 月曜日を原則ノ一部活デーに設定—職員室も必ず7時には施錠

⇒月曜日のノ一部活動デーはほぼ浸透。職員室の施錠は居残り学習会等もあり実施できず。

#### 3) 常勤講師(若手)増で、副担・分掌・部活動・各種当番に入れ、一人一人の負担軽減

⇒常勤講師を4人採用(新規1・非常勤より昇格3)入れ,校務分掌の受け持ちや副担任の数が増加し,一人一人の負担はわずかながらも減ったのではないか。

4) 校長面談の実施・会話のキャッチボール増やす

⇒11月下旬より期末試験等を利用し52名と面談。一人一人の意見や要望を聞くことができた。残念ながら医進コース関係での不信感・不安感を取り除くところまではいけなかった。

5) 活躍を認め合う,称えあう雰囲気醸成に努める

—Weekly Speech, 教員表彰等実施

⇒Weekly Speechは各先生方工夫を凝らして実施。また月1回のノンクリスチャンによる講話も生徒には新鮮のよう。教員も全国大会出場時には壇上で決意の言葉を述べさせた。生徒の多読賞や成績優秀者表彰・成績向上者表彰も実施し,以外な人物の表彰で盛り上がった。

## 8. 現在の問題点

①授業料の無償化への対応

—無償化の対象範囲・授業料以外の取り扱い・奨学生(可否・数・区分 etc.)

⇒「無償化」とは本当に一部の低所得者層のみで実質は現在の「就学支援金」の増額というレベルに留まるものであるので,大きな財政支援とはなりそうもない。

②商業科の特色付け

—ICCとの連携を軸に(PC関連に特化して)

⇒ICCとの連携は昨年以上のものを実施。検定の合格者数も増加し,商業科全体の向上はなされつつあるが,52名の入学希望者に留まったため,19年度は転科・転コース希望者を募り47名まで減らして1クラスで運営とした。20年度からは最初から1クラスでの募集したい。

③教室不足・寮の部屋不足(特に女子)・女性教職員の更衣室・休憩室の設置急務

⇒女子教職員のための更衣室・休憩室は設置済み。利用者からは感謝の声が。教室は宗教室まで使用してギリギリの状態。女子寮は満杯で,留学生を大学寮にお世話になることになった。

長崎ウエスレヤン大学

## 学校法人鎮西学院 長崎ウエスレヤン大学 2018 年度事業報告

### 1. 教学改革の進捗状況と産学官連携の推進

#### 1) カリキュラム改革の進捗

カリキュラム改革の4年目にあたる2018(平成30)年度は、改革最終年度であり、ディプロマポリシーの具体化と、学生のキャリア開発に向けた取り組みが完成形となった。

#### 【2018年度 コミュニティサービスラーニング・プログラム開設・受講状況】

	プログラム数	受講者数
2016年度	16	201
2017年度	18	171
2018年度	15	198

	プログラム名	受講者数
1	Academic, Cultural International Events or Activities Support Program	15
2	V・ファーレン長崎 応援とJリーグ活性化プログラム	22
3	ウエスレヤン助っ人隊	8
4	キャンパス美化プログラム	9
5	こどもの城プレイリーダー	9
6	ミライズ	9
7	会社 PR プレゼンター	9
8	交流さんぽ会	22
9	子どもの支援プログラム	16
10	食・音楽・観光による地域活性化	22
11	地域づくりの学びと実践	8
12	長崎市・諫早市・九州地域における地域活動及びまちづくり体験学習	8
13	「風の舎」ピアサポート活動	17
14	福祉教育関連企画支援プロジェクト	16
15	福祉施設活動支援	8

#### インターンシップ(旧カリキュラム)／CSLⅢ(長崎インターンシップ推進協議会)

	派遣人数
2016(H28)	10人
2017(H29)	7人
2018(H30)	8人

#### 2) 全学的キャリア支援体制の成果

基盤教育「就職活動スキルⅠ～Ⅳ」のほか、就職合同説明会や専門職による個人面談、エントリーシート等の添削指導、面接試験対策等、全学的キャリア支援を実施中であるが、2018年度卒業生の就職率は87.2%にとどまった。社会福祉士、精神保健福祉士国家試験合格率は、依然として高い水準を保っている。

【就職・進路実績】

● 就職率

	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度
全体	87.2%	86.4%	87.5%	92.6%
社会福祉学科	88.8%	86.4%	87.5%	97.0%
経済政策学科	92.3%	95.0%	88.0%	100.0%
外国語学科	81.2%	76.5%	86.7%	75.0%

就職者(2018年度) 41人 ※就職希望者 47人／卒業生 56人中

(内訳) 一般企業 30人 福祉関係 11人 / 県内 34人 県外 7人

- 主な就職先: 日本マクドナルド(株)、日本郵政、オリックス生命保険(株)、(株)東横イン、横尾病院、貞松病院、道ノ尾病院、大阪府大東市、九産大付属高校
- 進学先(大学・大学院): 長崎大学大学院、こころ医療福祉専門学校

【資格取得支援】

- 福祉関係国家資格新卒者合格率 ※カッコ内は全国平均

	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度
社会福祉士	64.3% (28.9%)	31.3% (30.2%)	37.5% (25.8%)	41.2% (26.2%)
精神保健福祉士	83.3% (62.7%)	100.0% (62.9%)	83.3% (62.0%)	57.1% (61.6%)
W受験	83.3%	83.3%	80.0%	50.0%

2018年度 社福:9/14 精神:5/6 ダブル:5/6

- 情報処理関連資格(CS検定) 受験者・合格者(人)

	ワープロ2級			表計算2級		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
2015年度 集計	3	3	100.0%	受験実績なし		
2016年度 集計	3	3	100.0%	2	1	50.0%
2017年度 集計	5	1	20.0%	5	3	60.0%
2018年度 集計	27	11	40.7%	9	5	55.6%

- 英語教育

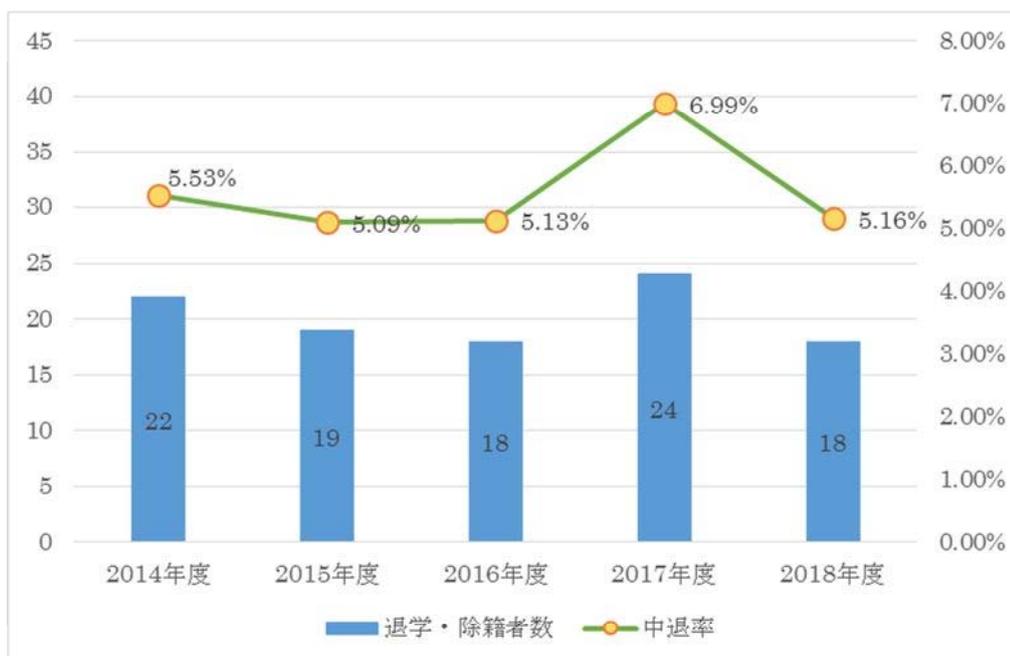
TOEIC

	受験者数(人)	最高スコア(点)
2015年度	43	935
2016年度	42	935
2017年度	26	875
2018年度	35	805

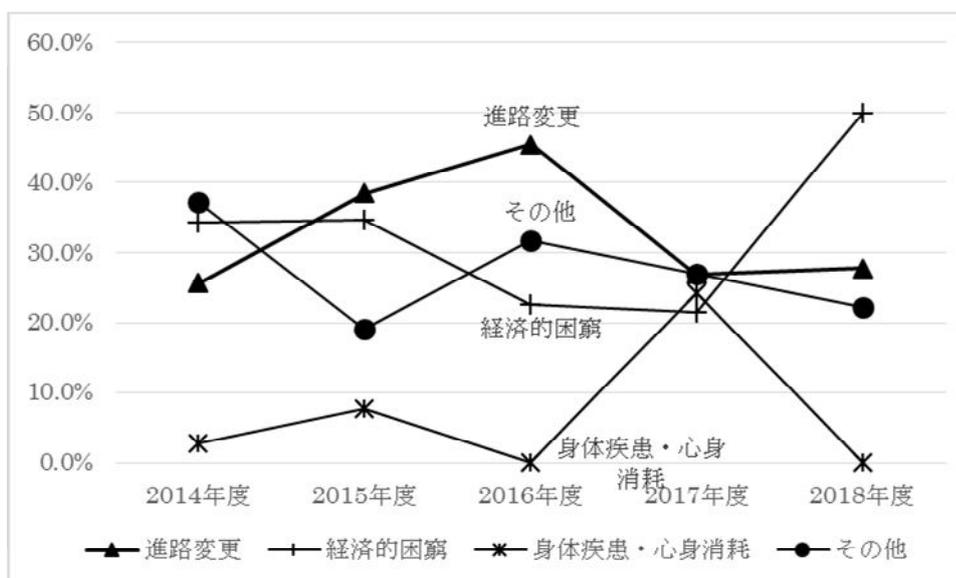
### 3) 中退予防

学科を中心に、キャンパスソーシャルワーカー、学生支援課、学生委員会との一体的かつ総合的な学生支援体制のもと、中退予防に取り組み、退学・除籍による中退率は、対前年度 1.8 ポイント減少した。退学・除籍の要因の年次推移を見ると、「身体疾患・心身消耗」は大幅に減少し、「経済的事由」が上昇している。学科、学生委員長、キャンパスカウンセラー、学生相談室のカウンセラーとの連携による成果によるものといえる。

【退学・除籍者数と中退率の推移】



【退学・除籍要因の推移】



4) 地域連携・産学官連携への取り組み

2017年度より長崎県諫早市と佐賀県太良町にまたがる「多良海道」地域の観光地域づくりによる活性化事業を継続受託した。地域連携に関しては、南島原市、長崎空港ビルディング株式会社、諫早青少年自然の家との連携協定を締結、10月に産学官企画連絡会議を開催した。本学を核とする連携協定機関の相互連携を推進し、産学官企画連絡会議の成果も出てきている。

このほか、昨年に引き続き、諫早市教育委員会との連携により、諫早市内の中学生対象のイングリッシュキャンプ(メイフェスタと同日に開催)による英語教育に継続的に取り組むこととなった。

【2018年度 受託事業一覧】

調査・事業名	委託元	金額
平成 30 年度イングリッシュキャンプ開催事業	諫早市	150 千円
まちづくり研究室・生涯学習室の運営	諫早市	—
「住民参加型交流会議『歴史の道 多良海道』	歴史の道観光・文化交流推進協議会	1,882.5 千円
計		2,032.5 千円

5) グローバル化への対応

引き続き、キャンパス内での国際交流、交換留学や海外CSPなどのプログラムへの学生の積極的参加・参画を促し、「国際的に有為な社会人」に必要なシティズンシップを養成する機会を多く設けた。

従来のタイ、フィリピン、カンボジアにおける海外CSP、スタディツアーに加え、アジア5地域(韓国・中国・台湾・マレーシア・日本)の大学間交流協定「AU+」の海外プログラムも開発している。また、JAS SO(日本学生支援機構)の海外留学の奨学金獲得の申請をおこない、14枠を獲得した。

【海外プログラムの状況】

プログラム	参加人数(人)
タイ・コンケンCSP	8
タイ・パヤオCSP	4
フィリピン・アウトリーチプログラム	1
カンボジア・タイST	4
マレーシア・ベルジャヤ大学インターンシッププログラム	2
中国・天津師範大学短期留学プログラム	11
計	30

2017年度より鎮西学院創立者の母校である米国テネシーウエスレヤン大学との交流が再スタートし、サマーコースの受入・招致に向け協議を開始したほか、従来の交換留学生13名、短期留学生10名に加え、日本語サマーコース2名を受け入れた。

受入プログラム	参加人数(人)
交換招致	13
短期受入	10
日本語サマーコース	2

6) 九州西部地域大学短期大学連合産学官連携プラットフォーム

長崎県・佐賀県の国公私立大学・短大、自治体、産業界によるプラットフォーム形成事業がスタートし、私立大学改革総合支援事業「タイプ5 プラットフォーム形成」に採択された。本学は、プラットフォーム事業において「地域・産学連携系ワーキング・グループ」責任校として、当該事業に積極的に参画することとなった。

このほか、引き続き、長崎県内4大学（活水女子大学、長崎ウエスレヤン大学、長崎外国語大学、長崎総合科学大学）による連携協定事業として、スタッフ・ディベロップメントやIRなど共同事業を実施した。

2. 学生募集・広報活動の状況

1) 学生募集活動

【定員充足率の推移】カッコ内は充足率

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
在籍学生数	398 (62.2%)	373 (60.2%)	351 (58.5%)	343 (59.1%)	349 (60.1%)	411 (70.8%)
1 年次入学者数	105 (75.0%)	72 (51.4%)	88 (62.9%)	97 (69.3%)	120 (85.7%)	151 (107.8%)
	内訳					
社会福祉学科	32 (64.0%)	18 (36.0%)	21 (42.0%)	20 (40.0%)	23 (46%)	38 (76%)
経済政策学科	28 (56.0%)	16 (32.0%)	26 (52.0%)	41 (82.0%)	42 (84%)	48 (96%)
外国語学科	45 (112.5%)	38 (95.0%)	41 (102.5%)	36 (90.0%)	55 (137.5)	65 (162.5%)

【入学者選抜】

①志願者数 日本人144名 留学生51名 計195名

- ・ 2015 年度以降、志願者数は増加傾向にあり、前年比日本人 44 名増、入学定員 140 名を超えた。
- ・ また、留学生志願者数も 51 名と 17 名増となり、計 195 名の志願者数となった。
- ・ 志願者増の大きな要因は、センター入試 A 日程での志願者数が 46 名、B 日程で 17 名となったことが大きい。また、指定校推薦で 21 名となったことも大きな要因である。
- ・ この傾向は、2017 年度から続いており、本学の教育への評価が上向きになっていることを伺わせる。
- ・ センター入試増になった要因は、本学学生の質的レベルアップの観点から、センター入試受験を進学校（口加・川棚レベル以上）および大規模私立高校に積極的に働きかける戦術による。
- ・ 併せて、Web 出願およびセンター入試における特待面接を廃止し、受験しやすい環境を整えたことによる。

②入学者数 日本人101名 留学生39名 計140名

- ・ 2015 年度以降入学者数は、増加傾向にあり、前年比日本人 23 名、留学生 10 名増、入学定

員 140 名となった。

- ・ 学院内推薦では減となったが、指定校推薦で増となり、推薦入試全体では前年度並みとなった。
- ・ センター入試での歩留まりが、59.7%(前年 52%)となったため、志願者増が入学者増につながった。
- ・ 全体での歩留まりは目標の 80%には届かず、70.1%(前年 78%)と低下傾向にある。

③学科別 社福38名、経政48名、外国語15名 計101名入学(日本人)

- ・ 社会福祉学科は、20 名前後推移していたが、充足率(入学)76%まで回復し、80%まであと 2 名となった。この傾向は、他大学の社会福祉学科でも同様で、介護・リハビリ系では減となっている。その分野での外国人雇用促進の政策と関係があるかもしれない。また、社会福祉学科のセンター入試志願者が増加傾向にあり、歩留まりも 50%と高くなっており、この層を如何に入学につなげるかが課題である。
- ・ 経済政策学科は、この 2 年充足率(入学)80%で推移していたが、入学定員 50 名まであと 2 名までになった。安定的に推移しているが、推薦入試への依存は依然大きい。
- ・ 外国語学科は、留学生も合わせると 53 名と入学定員の充足率は 1.33 となるが、日本人では 15 名と過去 10 年で最高となったが、充足率(入学)は 37.5%であった。センター入試の志願者が増となり、歩留まりも 50%であり、この層を如何に入学につなげるかが課題である。

④鎮西学院高校より28名入学

- ・ 院内 24 名(前期 18 名、後期 6 名)、センター利用 1 名、AO1 名、AO スポーツ 2 名の計 28 名が入学した。ここ 3 年間の入学者数が減少傾向にある。
- ・ 社会福祉 12 名(社福 9 名、精神 2 名、医療 1 名)、経済政策 14 名(経営 2 名、経済 9 名、地域 3 名)、外国語 2 名(外国 2 名)。
- ・ 内進率は、目標の 20%には程遠く 11.5%(前年 13.9%)と減少傾向にある。長崎県内の他大学の動向をみると、実数では減少傾向にあるが、卒業者数も減少しており、内進率はそれほど減少していない可能性がある。

【高校訪問・広報活動】

- ① 県内外の延べ469校を訪問(出前授業、進学ガイダンス等は除く)。前年実績359校の約1.3倍。
  - ・ 述べ訪問回数は、県内291校、県外178校。うち、入試広報課員も県内8校、県外59校を訪問。
  - ・ 県内では、68校を対象に平均4.2回となった。特に、高大接続の観点から、高校生を対象としたワークショッププログラムの開発をおこない、島原翔南高校、小浜高校での実施、2019年度から大村高校SSHでの実施につながった。本学の教育内容を高校で活用するという本学の教育を知ってもらう良い機会となった。
  - ・ 県外では、熊本県28校、福岡県29校、大分県30校、宮崎県31校、佐賀県14校、沖縄県40校、鹿児島県1校を訪問した。
- ② 訪問実績が2017年度359校、2018年度は469校とこの2年間で従来の訪問数が大幅に増加することで、本学への認知度は向上したといえる。その成果として、出願校数では、普通科3校、専門校5校、私立3校、県外6校と前年比19校に拡大したことが大きい成果である。
  - ・ 併せて、出願者数も普通科28名、専門校11名、私立8名、県外7名と特に普通科で増となったことが大きな成果である。

【オープンキャンパス集客状況推移】

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
高校生計	74	107	73	72
高3	41	53	56	65
高2	32	9	12	6
高1	1	4	5	1
運動部企画	0	41	0	0
社会人・その他学生	7	25	9	4
シニア	1	3	2	1
一般(保護者他)	33	38	47	37
合計	115	173	131	114

2) 留学生募集

【留学生入学者推移】

	2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度
	4月	10月	4月	10月	4月	10月	4月	10月	4月
1年次	31	14	34	18	25	11	46	17	48
うち私費	17	8	18	11	11	7	33	7	38
うち交換留学生	14	6	16	7	14	4	13	10	10
3年次	33	6	21	4	14	0	4	0	3
うち三年次編入	8	3	7	2	5	0	4	0	3
うち短期	25	3	14	2	9	0	0	0	0
学部生合計	64	20	55	22	39	11	50	17	51
日本語教育プログラム	26	32	40	37	26	27	51	57	16
留学生合計	90	52	95	59	64	38	101	74	67

3. その他の主な教育研究活動

<2018年度累積 GPA 学年別平均>

	年度	1年	2年	3年	4年
平均	2018年	2.33	2.46	2.41	2.69
	2017年	2.44	2.39	2.55	2.57
	2016年	2.48	2.59	2.52	2.52
最高	2018年	4	3.82	3.79	3.98
	2017年	3.96	3.79	3.97	3.85
	2016年	3.76	3.72	3.82	3.76
最低	2018年	0.26	0.3	0.59	1.04
	2017年	0.28	0.38	1.01	1.01
	2016年	1.07	1.19	1	1.28

<学長賞・成績優秀賞>

学長賞・・・卒業時に、4年間で卒業要件を全て充足し、かつ累積 GPA が 3.50 以上の上位の者、若しくは学期毎に、20 単位以上を修得し、かつ累積 GPA が 4.0 以上の者。

成績優秀賞・・・学期毎に、20 単位以上を修得し、GPA が 3.50 以上の者。

2015 年度	1 年	2 年	3 年	4 年
前期	11	12+1(学)	7	1
後期	5	8	3	4+1(学)
2016 年度	1 年	2 年	3 年	4 年
前期	3	6	4	0
後期	4	3	10	3+1(学)
2017 年度	1 年	2 年	3 年	4 年
前期	10+1(学)	4	2	0
後期	3	1	6+1(学)	9+1(学)
2018 年度	1 年	2 年	3 年	4 年
前期	7	5	3	0
後期	8	7	5	7+1(学)

<障害学生の在学状況>

	聴覚障害学生	肢体不自由学生	その他	計
2015 年度	0 人	3 人	4 人	7 人
2016 年度	0 人	2 人	2 人	4 人
2017 年度	0 人	0 人	8 人	8 人
2018 年度	0 人	0 人	10 人	10 人

<地域連携>

科目等履修生の受入状況

	前期	後期
2015 年度	8 人	7 人
2016 年度	8 人	9 人
2017 年度	3 人	6 人
2018 年度	5 人	5 人

(English Proficiency I、English Grammar I、Academic English I、日本語教育論、日本語教育実習、教育実習 I 等)※日本語教育プログラム受講生を除く。

<高大連携関連事業報告>

鎮西学院高等学校との高大連携について、「高大連携講座」に年間を通して取り組むとともに、昨年度に引き続き「ゼミ訪問ラリー」を実施し、ゼミの雰囲気を感じてもらい、大学教員や学生との交流を図ることで、本学への理解を深めてもらうことができた。

また、九州福祉系高校教員研究セミナー、高校生福祉大賞コンテストを開催し、高校における進路指導の動向や、高校生の進路選択についての調査研究、高校生を対象とした福祉啓発事業を継続して行なった。

<部活動の主な成績>

クラブ名	大会名	結果
卓球部	全九州春季卓球大会(福岡)	男子団体 4 部優勝 入れ替え戦勝利 3 部昇格 男子シングルス 針尾恭輔 7 位、松木准平 ベスト 32 男子ダブルス 松木・針尾ペア ベスト 16
	全九州秋季卓球大会(熊本)	男子団体 3 部優勝 入れ替え戦勝利 2 部昇格 男子シングルス 針尾恭輔年間ランキング14位 男子ダブルス 松木・針尾ペア年間ランキング 8 位
	全日本大学卓球選手権大会(埼玉)	男子シングルス 針尾恭輔出場 男子ダブルス 松木・針尾ペア出場
	全九州学生新人卓球大会(福岡)	男子シングルス 針尾恭輔 3 位
	オール西日本大学卓球選手権大会(愛媛)	男子シングルス 松木准平・針尾恭輔・椿雄大郎 出場 針尾恭輔ベスト 32
	全九州卓球選手権大会 一般の部	男子シングルス 松木准平・針尾恭輔出場 男子ダブルス 針尾・坪口(高校教員)3 位
	男子バレー部	九州大学春季バレーボール男子リーグ沖縄大会
九州大学秋季バレーボール男子リーグ大分大会		4 部優勝
天皇杯全日本バレーボール選手権 長崎県ラウンド		ベスト 8
硬式テニス部	九州学生テニス連盟春季テニス大会 (九州インカレ)	シングルス 有江龍太郎・山本怜旺 3 回戦 ダブルス 有江・山本ペア3回戦
ジョギング部	第5回スポニチ・バラとワインマラソン in ハウステンボス兼第5回全日本マラソン選手権	5km 永尾勢矢 102 位、中本雄大 112 位

	ロザ・モタ杯第 41 回おおむらロードレース大会	高校一般 10 km 深井大介 15 位、川崎隼佑 38 位 高校一般 3km 中本雄大 12 位、永尾勢矢 18 位
	第 5 回親和銀行 5 時間リレーマラソン	95 位
フットサル部	シーボルトカップ	優勝
	第 12 回九州大学フットサル大会	3 位
	長崎インターカレッジフットサル大会 2018	優勝 最優秀選手賞 磯田陸 得点王 太田裕也
	長崎フットサルナイターカップ大会	2 位
野球部	Full-sato BASEBALL TOURNAMENT 佐賀ステージ	出場
WJE ウエスレヤン ジャズアンサンブル	<p>出演実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎ウエスレヤン大学入学式・新入生勧誘会(4 月)</li> <li>・ピースアワー(4 月)</li> <li>・諫早つつじ祭り(4 月)</li> <li>・長崎ウエスレヤン大学メイフェスタ(5 月)</li> <li>・たらみ市(6 月諫早市多良見町喜々津商店街)</li> <li>・大村花菖蒲祭り(6 月)</li> <li>・竹松ゆかた祭り(7 月大村市)</li> <li>・長崎ウエスレヤン大学オープンキャンパス(7 月 8 月 2 回、計 3 回)</li> <li>・おおむら夏越まつり(8 月)</li> <li>・たらみ図書館 学童保育 夏イベント(8 月)</li> <li>・2018 のんのご諫早まつり(9 月)</li> <li>・鎮西学院校友会大会(10 月)</li> <li>・長崎ウエスレヤン大学 \$ 2 祭(11 月)</li> <li>・いさはや灯りファンタジア 点灯式(11 月)</li> <li>・道の駅鈴田峠 秋の収穫祭(11 月)</li> <li>・福祉大賞コンテスト(11 月)</li> <li>・長崎ウエスレヤン大学クリスマスツリー点灯式・礼拝(11 月)</li> <li>・諫早市民クリスマスコンサート(12 月)</li> <li>・交流さんぽ会(12 月)</li> <li>・第 6 回拡大たらみ市(1 月)</li> <li>・道の駅鈴田峠 春の収穫祭(3 月)</li> <li>・長崎ウエスレヤン大学春のオープンキャンパス(3 月)</li> </ul>	
コーラス隊	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学式</li> <li>・ピースアワー</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・\$2 祭</li> <li>・おおせと ふれあいの集い</li> <li>・クリスマス点灯式</li> <li>・諫早市民クリスマスコンサート</li> <li>・クリスマス礼拝</li> </ul>
ブッククラブ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内ビブリオバトル 11 回</li> <li>・全国大会出場</li> <li>・学外ビブリオバトルデモストレーション(御館山小学校、ココウォーク、長崎歴史文化博物館、長崎県教育委員会)</li> <li>・読みかたり(御館山小学校)</li> </ul>

### <学術研究>

#### 学会補助

本学を会場として開催した下記の学会において、補助をおこなった。

学会名	開催日	補助額
日本語ジェンダー学会第 19 回年次大会	2018 年 6 月 23 日(土)	50 千円
日本精神保健福祉学会第 7 回長崎大会	2018 年 9 月 16 日(日)	150 千円

#### 個人研究費の配分状況

2018 年度の個人研究費については、財務逼迫の折、昨年同様 150 千円の配分となった。

#### 地域総合研究所共同研究費の配分状況

研究代表者	職位	共同研究課題一覧
菅原良子	教授	途上国における孤児施設の現状と課題
波名城翔	講師	島嶼地域で生活する高齢者の終末期における生活ニーズに関する研究 -長崎県新上五島町の調査から-
磯本光広	教授	行列簿記表の実現可能性および複式簿記に与える影響の研究

#### 科学研究費助成事業の獲得状況

2018 年度の科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)は新規採択なし、また「2019 年度科研費」申請件数は 6 件、採択は 2 件であった。